

令和 2 年 9 月市長定例記者会見

日 時：令和 2 年 9 月 1 日（火） 午前 11 時～

場 所：射水市役所会議室 305・306

報道出席者：北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞、読売新聞、北日本放送、
NHK 富山放送局、ホットライン KOSUGI

当局出席者：市長、企画管理部長、財務管理部長、企画管理部次長、
未来創造課長、都市計画課長、政策推進課長、港湾・観光課長、
保健センター所長

○質疑応答の概要

Q 1. 市長の任期が残り 1 年余りとなったが、これからどのような課題に特に重点を置くのか、また来年の市長選について市長の考えを伺いたい。

A 1. 残りの任期については、まず現在の新型コロナウイルス感染防止対策とこれにより大きな影響を受けている市内の経済や市民の生活の回復、また、経済については活性化を目指していく取り組みをしっかりと行っていきたいと考えている。また、この間取り組んできた地方創生の取り組み、人口減少の克服、人口減少社会に見合った地域づくりの取り組みについても、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。なお、任期以降の話については現在考えていないので、残された任期をしっかりと全力で取り組んでいきたい。

Q 2. 周遊バス運行について、これの主体は射水市なのか、また、利用目標・乗車目標について伺いたい。

A 2. 周遊バスについては、主体はまちづくり協議会、運行する事業者は海王交通であり、「べいぐるん」と同じような形になっている。目標については、数字までは出していないが、利用の状況などを見ながら本格運行を目指していく。また、引き続き PR や利用しやすいルートなどの見直しを行い、状況を見ながら実証運行をしていくのか判断する。

Q 3. 特別定額給付金について、給付率 90 パーセント台後半という結果についての感想と、地方自治体にとってこの事業がどれほど負担だったのか、どのように感じているのかを伺いたい。

A 3. 給付率が 100 パーセントにならなかったのは、どうしても申請しない方がおられたり、また申請書を送った住所に住んでいない、つまり転居などの手続きをせずに引っ越しをした方、また一人暮らしで申請前に亡くなった方などがおられたからだと考えている。この 99.7 パーセントという数字については、設置本部のスタッフに最後まで出来る限り可能な方に申請をお願いしようということで取り組んだ努力の成果であったり、福祉事業所・民生委員・地域振興会・郵便局や金融機関など多くの方々に協力をしていただき、ここまで給付率を上げることができたと捉えている。また、この事業そのものがどうだったかについては、最初に打ち出された際には、やはり国で決められた事業を市町村が行っていくという、天から仕事が降ってくるような状況についていかななものかという思いもあったが、実際に給付に当たっていく中で、やはり市民に最も身近な行政機関である市町村でないと 99.7 パーセントというここまでの給付率には届かなかっただろうと思っている。結果的に言えば、市が担ったということについては、多くの市民の皆さんに 10 万円を届けることができたということでひとつ成果があったのではないかと考えている。

Q 4. 歌の森運動公園のスターボックスについて、店と公園の駐車場を共用してもいいのか。また、周辺の遊具の整備に新型コロナウイルス感染症による遅れなどの影響はなかったか。

A 4. 公園内に立地する施設なので、スターボックスに来店する方が公園利用者と同様に公園内の駐車場を利用していただくことは問題ない。特にオープン当初は多くの方が待ち望んでおられたということでたくさんの方が来られて渋滞が発生するのではないかという危惧もしているが、そういったことの対策についてはこちらからスターボックスに申し入れをさせていただきたい。遊具の更新についてはスターボックスの工事との兼ね合いがあり、ある程度できた後に旧の遊具を取り壊して新しいものを入れるというスケジュールのため、若干工事は残っているが、特段新型コロナウイルス感染症の影響で遅れたという形ではない。

Q 5. 市民病院の発熱外来について、内部を改造して設けることを議会で提案しているが、これは外に設ける方法と比較してより良かったからそうしたのか。

A 5. 現在設置している発熱外来をそのまま使い、利用される方については他の来院者との接触がないように導線とアクセスをしっかりとさせ、安全を確保するように改修することを提案している。外に設置するのとどちらがいいのかというような話もあるが、市民病院としては現在の発熱外来をしっかりと利用して、これまでの様々な実績・ノウハウを活かしながら診察を行い、また、一般の方の治療についてもしっかりと安全を確保しながら行っていくという観点からの提案である。

Q 6. 各市町村で対応しているインフルエンザの助成について、9月定例会中に追加提案する準備があるか。

A 6. インフルエンザ助成については、県の方では今年度小学生まで補助を出し、県内の各市町村でそれに上乗せをした形での単独の助成の打ち出しもされているところである。射水市では現在こういった支援が必要なのかということについて検討しているところである。内容が固まり次第、できればこの開会中の9月定例会に、追加の議案ということでお願いできればと考えている。